

# 琉球大学学術リポジトリ

## 台湾の農業事情 (下の1)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20669">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20669</a>

# 台湾の農業事情 (下の1)

## 3. 台湾の農作物

台湾の緯度は熱帯から亜熱帯に亘っており且つ3千以上の高い山脈が南北に走っていてそれらの高地は標高度に応じて温帯から寒帯の気候まで作ってくれるので、台湾に於ては平地に於ける熱帯性の作物を主体として之に温帯作物が加わり、尚開発の緒についたばかりであるが高冷地の寒帯作物も加わってきて作物の種類は極めて多い。紙面の都合でその全部にふれることは出来ないが主要作物だけについて見ても第3表の如く数が多い。第3表によって主要作物の栽培(収穫)面積、生産高及びha当り収量の戦前最高、戦後の年次別消長及び比較が分る。主なるものに就いて要点だけを書くと次の通りである。

(1) 水稲(米)：水稲は第2表と第3表で分るように栽培面積と生産評価額で断然他を抜き矢張り台湾農産物中の大宗である。畜産物を含めての全農産物中で評価額指数44%を示し、農作物だけで見ると水稲以外の全作物を合せても水稲には及ばない。毎年激増する人口の食糧問題とも関連し台湾に於ては水稲の増産確保ということは最大の国策である。さればこそその育種や栽培技術の研究だけでなく水利開発、土地改革、土壤調査等と関連する凡ゆる部門を総動員して増産の実績を上げつづけている。第3表にあるのはha当

り白米にして1回作だけの平均収量であるから年2回作が普通であるので年間収量はその倍量である。各所での話を総合すると10a(反) 当年2回作を合算して玄米4石位とのことだった。台湾に於ては灌漑可能な耕地は必ず水稲が年2回作られるだけでなく水稲裏作として夏と冬の畑作物が作られることになっている。品種としては殆んど蓬莱米(日本稻系統)で台中65号は台中を中心に台湾全域に拡まっており、北部地区では之に加えて台北306号(50%)、台中地区では外に台中畜号150と155号、嘉義242号及び台中在来1号が加わる。台南高雄の南部地区では嘉南8号を主として僅かに台南番号と高雄番号のついた数品種が加わって栽培されている。

こゝで特筆したいことは台中地区で台中在来1号と呼ばれる在来稻のことである。之は印度型の水稲であるが矮生で草丈45cm位、耐風性強く不倒伏、耐旱性大、耐病(イモチ)性強、分けつ性大(台中65号約20本、本種約40本)、収量は改良種に優る(但し品質は落ちる)、欠点として二期に白葉枯病に羅り易くフジシも多くつく等の性質を持った印度型在来水稲である。その欠点としては印度型一般の性質であるが前記の数々の長所が特に注意を惹く。そして台湾に於ても育種母本として用いられていた。台中農試では母本として別

第3表 主要作物の栽培(収穫)面積、生産高、収量(台湾統計資料書、1962)

類別 時期	米 (白米)			甘 藷			落 花 生			甘 蔗 (白糖)			(赤 糖)			
	栽培面積 1,000ha	生産高 m. t.	収量 ha. 当kg.	栽培面積 1,000ha	生産高 m. t.	収量 ha. 当kg.	栽培面積 1,000ha	生産高 m. t.	収量 ha. 当kg.	栽培面積 1,000ha	蔗茎生産 高1,000 m. t.	収量 ha. 当kg.	生産高 m. t.	収量 ha. 当kg.	生産高 m. t.	収量 ha. 当kg.
戦前最高	625.4	1,402	2,242	139.0	1,770	12,734	31.5	31,705	1,008	162.4	12,835	79,039	1,374,043	9,912	44,688	6,393
1946	564.0	894	1,585	176.0	1,331	7,558	50.8	37,379	736	36.2	1,007	27,801	86,074	2,631	1,619	3,283
1956	783.6	1,790	2,284	230.2	2,568	11,154	98.3	81,847	833	90.9	6,343	69,782	767,328	9,461	19,536	5,308
1961	782.5	2,016	2,577	233.9	3,223	13,780	101.8	108,024	1,061	92.0	7,511	81,675	924,313	10,041	21,919	6,964
比較 (%)																
1961 戦前最高	+25.1	+43.8	+14.9	+68.3	+82.1	+8.2	+223.2	+240.7	+5.3	-43.3	-41.5	+3.3	-32.7	+1.3	-51.0	+8.9

註 ●出所：MOEA, PDAF (経済省、農林庁)

●白糖にはBeet Sugar も含まれている。

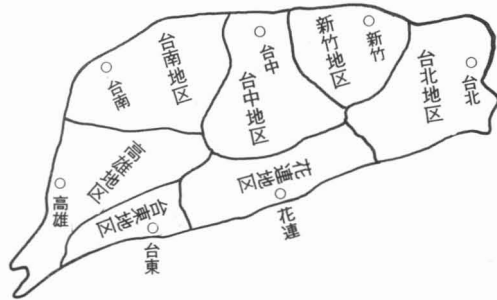
記事ふくそうのため他作物の表はカットした。(編集)

にスペイン、イタリイからも取寄せたといういた。

(2) 甘 藷：台湾に於ける甘藷は沖縄に於けると同様に食糧としても僅かに用いられるが、より以上に家畜の飼料として重要性が高い。栽培面積は水稻に次いで第2位。甘藷育種の中心は昔から嘉義農試所である由だが現在もそこが中心となっている。栽培面積、生産高共に遥かに戦前最高を凌いでいるが之は又豚の飼養頭数の増加と相伴っている。現在台湾で最も奨励されている品種は台農57号であり沖縄にも導入されているが該品種に就いて概述すると次の通り。台農57号は台農27号を母とし、1950年米国より導入された Nancy Hall を父として育成、産量特に高く品質良好(カロチン含有多)の故に1956年奨励品種に指定さる。葉は五つに深く裂け葉脈淡紫色、塊根絛形、藷皮褐黄色、肉橙黄色、耐湿性大、耐旱性弱、年間各季で収量最高、早熟で5~5.5ヶ月、澱粉含量16.40~18.10%。台中、台南方面ではha当り1回作で4万3千余キロの収量をあげている。

(3) 落花生：甘藷に次ぎ第3位の栽培面積、戦後の増加が注目される。春秋年二回作である。食油原料として価値が高いので育種に於ては含油率に早生、耐病性が重視される。嘉義、台南地区が主産地、嘉義西方の北港に大搾油(薬品処理)工場がある。台南区農改場が中心となって育種や種々の試験を行っている。優良品種に台南6号、全7号、台南白油豆1号等がある。

(4) 甘 蔗：台湾に就いて最も我々の注目を惹くものに甘蔗がある。昔から台湾は世界屈指の産糖国であった。第3表で見る如く栽培面積は現在でも第4位を



占めてはいるが戦前は水稻と第1位を争っていた作物である。現在の蔗作状況を戦前最高と比べると収穫面積で43.3%、蔗茎生産高で41.5%と夫々減じているが、単収に於ては僅か3.3%の増加である。その理由は台湾に於ては灌漑の便ある良い耕地は全部水稻作に充てられ、甘蔗は一般に悪い耕地にしか作られていないからである。而して白糖、赤糖を合計して戦前最高と1961年度の産量とを比べて見ると、その産量が戦前の66.7%であり、戦前最高よりは33.3%落ちている。このことは戦後急増した人口の食糧問題とも関連し止むを得ないことである。然し乍ら第6表に見る如く台湾に於ける輸出品としての地位は昔と変わらず現在でも第1位を占めていて、余り振わなかった1961年度に於てさえ全輸出品中の28.54%を示し金額にして6千9万6千弗を輸出している。従って台湾に於ける特産物として甘蔗の重要性は水稻と共に最高の位置を占めている。甘蔗の主産地は台南以南であり嘉義以北には蔗園は余り見られなかった。従って育種を初め甘蔗の試験研究は台南の台糖公司糖業試験場が中心で、組織下に屏東県に萬丹甘蔗育種場、別に屏東と恒春に育苗所がある。台南の試験場と萬丹育種場を訪ねたが品種の保存蒐集、育種、栽培、病虫害関係に相当な努力を傾注しているのが見られた。蒐集品種約1千種、交配用には約2百品種あるが内重要品種は20~30品種である。野生種も相当蒐めていた。台湾に於ける蔗作面積の半は株出しであるとのことだった。既述した如く台湾に於ける蔗作は一般に灌漑の便を持たない中以下の土地に作られているので今のところ悪環境に良く耐える N:Co. 310 が普及率は高いが上中地向きの品種としては糖業試験場で育成した F 146(産量大、中上地向き)、F 148(早熟種、糖度高)の方が寧ろ成績が良いとのことだった。5051、6051等の早生種も育成されていた。育種の目標は収量、ブリックスは勿論のことだが、悪条件に耐えるもの、病害に強く早生であること等である由。N:Co. は一般に病害には強いが矮化病には弱いとのことだった。矮化病とはウイルスの一種で外観は矮形化して生育が進まず、15%の損失率の

### (台湾の農業事情のつづき)

由。蔗茎を横断して見ると褐色の斑点が断面に点在し、縦断して見ると節を中心にその上下に維管束に沿うて褐色条線が伸びているのが見えるとの説明だった。之を予防するには50℃の温湯に2時間浸けておくと98%防げるというていた。メイチュウ防除には印度からその天敵の寄生蜂を取寄せ活物防除を実施していた。甘蔗の開花には矢張り高温が良いらしく萬丹で開花しにくいのはもっと温度の高い恒春で開花させる由。甘蔗は矢張り日光に敏感であつて台南で12時間30分、萬丹で12時間15分に短縮するのが開花促進に最も良いというていた。

甘蔗は交配してから27~30日位で種子が成熟し、播種時まで種子は低温乾燥の場所に貯蔵され、播種は有機質がなくなるに消毒された且つ木灰も加えられた床に行われ、木綿布で被われる。発芽率は品種により異なるが一穂から多いので数千、少いので100芽位らしい。交配して数万、数千、数百の中からより良い性質の品種を選抜する訳だが良種選抜まで9~10年はかゝるらしい。又永年の苦勞にも拘らず一個の良種ですら選抜出来ないこともあるそうだ。甘蔗育種も亦なまやさしいことでない。話は変わるが台湾の糖業は今困難な立場にあるようだ。繰返して言うように、食糧問題との関連もあろうが、水利開発が進むにつれて良い土地は皆水稻作に変つていく、昔は間作しなかつたが今は甘藷、大豆、棉、トウモロコシ、コーリヤン等の間作を奨励している。以前は秋植を奨励しなかつたが今は奨励しているからである。台糖公司では糊仔栽培(甘蔗と水稻との輪作のとき水稻立毛中に甘蔗を植付ける)もする等のために甘蔗が作付される環境は多様であるので、夫々の環境に向く品種と栽培法とを研究せねばならないというていた。台南の農場は瘠せて塩分を含んでいるので其処で育成された品種は斯様な方面の土地に向けるし、萬丹の農場は比較的良いので萬丹で育成されたのはできるだけ良い条件の場所に向けるとのことだつた。

(新垣真保)